

平成28年1月

伊藤亜矢子 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久
副主査 林 一 彦
同 山 元 修

主論文

Pseudocheckerboard pattern : an interesting histopathological finding in mechanic's hands

(偽チェッカーボードパターン：メカニクスハンドにおける興味深い病理組織所見)

(著者：伊藤亜矢子、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成27年 Journal of Cutaneous Pathology DOI:10.1111/cup.12583

参考論文

1. Identification of a Major Yolk Protein as an allergen in sea urchin roe

(ウニアレルゲンとしてのMajor Yolk Proteinの同定)

(著者：伊藤（山崎）亜矢子、檜垣裕美、中島圭子、山元修、Kyaw Zaw Hein、高橋仁、千貫祐子、森田栄伸)

平成22年 Acta Dermato-Venereologica 90巻 235頁～238頁

2. Myofibroblastic differentiation in atypical fibroxanthomas occurring on sun-exposed skin and in a burn scar: an ultrastructural and immunohistochemical study

(日光暴露皮膚と熱傷瘢痕上に生じた異型線維黄色腫における筋線維芽細胞分化:免疫組織化学的微小構造の研究)

(著者：伊藤亜矢子、山田七子、吉田雄一、森野慎一、山元修)

平成23年 Journal of Cutaneous Pathology 38巻 670頁～676頁

3. Case of interdigital pilonidal sinus in a dog groomer

(犬のトリマーの指間に生じた毛巣洞の1例)

(著者：伊藤亜矢子、吉田雄一、山元修)

平成25年 The Journal of Dermatology 40巻 1051頁～1052頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、メカニクスハンドを呈する皮膚筋炎患者の生検組織の病理組織像において特徴的な角層の所見を見出し、湿疹患者の病理組織と比較することで両者の鑑別点を明らかにしたものである。「シュードチェッカーボードパターン」と名付けたその特徴的な病理所見は、湿疹でも見られ得るが、その場合は表皮基底層の空胞変性や海綿状態の有無、壊死性ケラチノサイトの数が鑑別点になると結論づけた。皮膚筋炎の診断において皮膚病理がより重要視されるようになった昨今、本論文の内容はメカニクスハンドの病理診断に有用であり、皮膚筋炎の早期診断治療につながるものと考えられ明らかに学術水準を高めたものと認める。